

令和元年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

山形県立鶴岡工業高等学校(全日制)

教育目標	1 豊かな教養と工業に関する知識と技術を修め、創造性に富んだ人間の育成。	重点目標	1 授業の充実と確かな学力の育成 -社会を生きぬく基盤となる学力の育成-
	2 自ら深く考え正しく判断する力と他を思いやる心をもった感性豊かな人間の育成。		2 心身の健康と生徒指導の充実 -豊かな心と健やかな体の育成-
	3 健全な身体とねばり強い実践力を培い、心身共にたくましい人間の育成。		3 高い目標を実現できるキャリア教育の充実 -変化に対応し、社会で自立できる力の育成-
			4 工業教育の充実と学校活力の創出 -学校と地域の協働による人づくり-
			5 地域に根ざした魅力ある元気な学校 -郷土に誇りを持ち、地域とつながる生徒の育成-

達成度	A : 達成	B : 概ね達成	C : やや不十分	D : 不十分
-----	--------	----------	-----------	---------

評価項目	自己評価(年間)			学校関係者評価	総括	
	具体的方策と指導・基準等	目標達成状況及び取り組み状況	達成度	次年度に向けた改善策		意見・要望・評価等
1 授業の充実と確かな学力の育成	(1)学びに向かう力の育成と家庭学習の定着による確かな学力の育成を図る。 (2)主体的で対話的な深い学びを育む授業実現に向けた研究と改善を行う。 (3)専門性の高い資格取得等に対応できる能力を高める指導の推進する。	(1)出席率は目標である99.5%を概ね達成できた。 (2)家庭学習2時間以上を目標にしたがテスト前は概ね達成できたが普段は達成できなかった。 (3)授業満足度の目標80%を達成できた。 (4)欠点保有者を0人とすることはできなかった。 (5)年間図書貸出読書数1.9冊/人(昨年3.7冊) (6)職員を研修会に派遣し教科指導の充実を図った。	B	・特別な支援を要する生徒や進路目標等、生徒の要望に応える校内組織の在り方を検討を継続する必要がある。 ・学力向上策、キャリア教育推進、カリキュラム・マネジメント構築を検討する必要がある。 ・教科指導法についての研修をさらに充実する必要がある。	・授業について生徒や保護者からおおむね満足している評価を得ている。 ・学力向上に努められ、結果として各種資格や就職に反映されており、極めて良好である。 ・高い学習意欲を持った生徒が、さらに高い専門的な学びを探究できるようにするなど、生徒一人ひとりに対応した学習指導の在り方を検討していただきたい。 評価B	・地域拠点校としての特色と魅力をさらに発信できるように努力していきます。 ・地域に根ざし元気な学校、郷土に誇りを持ち地域とつながる生徒の育成に心掛けて実践します。 ・確かな学力に基づいたキャリア教育の視点で探究心と向上心を持った生徒育成に取り組みます。
2 心身の健康と生徒指導の充実	(1)自他の尊厳を大切にし、社会の一員としての規範意識やマナーの確立を図る。 (2)豊かな人間関係を育む学校生活と交通安全・情報等に関するモラル教育を推進する。 (3)家庭や地域と連携・協働した教育活動を推進する。	(1)いじめアンケート2回実施し、迅速かつ適切に対応した。 (2)自転車事故が6件と減少した。(昨年13件) (3)部活動加入率は目標の90%以上を達成した。 (4)PTA総会を2回実施して出席率60%目標にしたが、69.3%(昨年69.8%)を達成できた。 (5)学年PTA・学級PTA・地区PTA全実施できた。 (6)機器使用のルール徹底と情報モラルの啓発に向けた指導を充実させた。 (7)学年団部や当該学科等との情報交換やスクールカウンセラーの活用などにより生徒の支援にあたった。	B	・特別支援コーディネーターを中心に組織的な要支援生徒への対応を充実させる。 ・いじめは絶対許さない校風づくりと完全防止を徹底する。 ・交通安全や防犯、SNS活用等、現状に応じた指導を適切に行う。	・生徒の現状を把握し、きめ細やかに適切に対応されており、良好と認められる。 ・おおむねルール、マナーを守り、地域での挨拶もしっかりしていることから、親身な指導が伺える。 ・支援を必要とする生徒への個別な対応がやや足踏み状態だと感じる。できることから第一歩を踏み出していきたい。 評価A	・生徒一人ひとりに対応した支援に取り組みます。 ・家庭学習の習慣化の点で不足しており継続して指導します。 ・社会で自立できる社会性を身につけ、いじめの根絶や交通安全意識の向上に今後も取り組みます。 ・元気で豊かな心と健やかな体をつくり、工業教育の充実と学校活力の創出に取り組みます。
3 高い目標を実現できるキャリア教育の充実	(1)将来の在り方・生き方を探求し、変化に対応できる実践的な技術者の育成を目指す。 (2)コミュニケーション力や自己表現力等を備えた社会で求められる人間力の育成を図る。 (3)地域の未来を考え、起業的・国際的視野を持った人材育成を図る進路指導の展開。	(1)企業就職希望140名中県内73名、県外67名、公務員希望7名中4名が内定した。 (2)地元就職率は65%の目標に届かなかった。 (3)3年間を見通した進路ガイダンスにより充実した進路指導を実施した。 (4)戸田達昭氏(起業家)の講演を実施し起業的・国際的視野の育成を図った。 (5)応用情報処理技術者1名、電気工事士27名、ITパスポート12名、測量士補3名、土木施工業者20名、建築施工技術者16名合格。	B	・AOや推薦の大学受験に向けて、2・3年生の進学希望者に対する補習体制の充実を図る。 ・地元就職に関する生徒への情報提供の充実を図る。	・将来を担う鶴岡生徒に勤労観や職業観を育み自立できる能力をつけることが地域の人材育成につながる。これに基づいた取組みが積極的に進められている。 ・各種資格取得者数も増え、教育の充実が目に見えて出来ている。 評価A	・各種大会で全国で優勝できる生徒を育成します。
4 地域に根ざした魅力ある元気な学校	(1)地域や産業界、大学等の連携による工業教育の活性化を図る。 (2)地域への工業教育の魅力発信と各種コンテスト等での活躍の推進。 (3)全国で活躍できる部活動やものづくり活動の育成と支援を図る。 (4)ホームページやパブリシティ等による積極的な情報の発信を図る。	(1)郷土愛醸成のモデル校に指定され新聞活用研究を年間通して取り組んだ。また、山形大学工学部と高大連携・接続協定により生徒の研究体験を実施できた。 (2)山形大学国際事業化研究センターと高大連携を締結し本県の未来を担う起業家育成プログラムを実践した。 (3)地域に工業技術を生かす研究活動とPR活動を積極的に行った。課題研究発表会では荘銀タクト鶴岡で開催し約70名の御来賓をお迎えし本校工業教育の情報発信にも結び付けることができた。ものづくり展示会は公開講座も実施し大好評を得た。 (4)中学生体験入学会の満足度90%を達成した。 (5)HPについては、年度の後半に更新頻度が低い状況であった。	A	・生徒の多様なニーズに対応できるよう、高大連携や企業との連携をさらに強化し、地域の力を活用した教育活動の実践を継続して推進する。 ・運動部、文化部の活発な活動により、拠点校として維持・発展していく。 ・HPにおいて、各部のブログやプレスリリース等、最新の情報を発信できるように努める。	・地域のニーズに敏感に反応し行動・実践している。 ・研究発表会のレベルは年々向上し、地域の企業からの評価も高い。継続し、社会に出てから有効的に生かしてもらいたい。 ・スポーツや各種コンテスト等への出場は学力向上にも大いに役立つ。工業高校としての特性を十分生かしてほしい。 ・鶴岡の基盤産業だった絹織物に着目した取組みは、地域を知る機会となり、元気な学校づくり活力の創出にもつながる。 ・新たなことに積極的に取り組もうとする学校づくりが出来ている。 ・働き方改革も踏まえながら教育力を向上させる学校運営を検討していきたい。 評価A	

自己評価及び学校関係者評価の改善点等	・工業高校の特徴であるものづくり教育をさらに発展・充実したものに将来の進路実現に結びつけられるよう、職員一丸となって取り組む。 ・改善の要するところ、すでに達成できていて更に進展させる方策について全職員で共有し検討していく。
--------------------	---